

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 吉田 節 美
 幹事 石黒 正 則
 会報・雑誌委員長 大 口 弘 和

No. 38

ロータリーの夢を追い続けよう

FOLLOW YOUR ROTARY DREAM

1998～99年度 RI会長 ジェームス・レイシー

きょうの例会
 第805回 平成11年5月18日(火)

講演 “Jリーグと名古屋グランパスエイトの課題”
 名古屋グランパスエイト
 専務取締役 小宮 好雄氏
 (紹介 水野(宏)君)

先週の記録
 第804回 平成11年5月11日(火) 晴

◆ “我等の生業”

◆ 黙 想 ～新 緑～

◆ 出席報告

会 員	69(67)名	出 席	52名
出席率	77.61%		
前々回	4月20日(修正出席率)	98.48%	

◆ ビジター紹介 1名

◆ ゲスト紹介

日本グリーンビルディング協会
 事務局長 浅井 充彦氏

ニコボックス

秋山 茂則君 たまには何も書かない日があってもいいでしょう。
 浅井 誠寿君 アンソール展を観て……。反骨の画展を出づる青嵐。
 成田 良治君 佐久間君、お花有難度うございました。
 大谷 和雄君 長男の結婚では皆様にお世話になりました。
 舍人 経昭君 岡崎のローターアクト年次大会に出席しました。
 山本 眞輔君 18日より県美術館にて日彫展を開催します。御高覧いただければ幸いです。
 足立 一成君、萩原 喜代子さん、林 哲央君、池田隆君、石黒 正則君、神崎 住恵さん、加藤 大豊君、菊池 昭元君、小林 明君、小杉 啓彰君、小山 雅弘君、久野 峯一君、黒須アイ子さん、丸山 昌宏君、松居 敬二君、松島 孝彰君、三輪 康君、宮尾 紘司君、三好 親君、本山 孝君、中井 常雄君、西川

豊長君、西野 英樹君、鷺谷 龍男君、佐久間良治君、佐野 寛君、笹野 義春君、鈴木 理之君、竹内 眞三君、谷口 優君、和田 正敏君、山田 壽勝君、山本 英次君、吉田 節美君 大変さわやかな5月、久しぶりの例会です。

石黒幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はそのままお残り下さい。
2. 次回例会終了後、クラブアSEMBリーを開催致しますので、担当の方はお残り下さい。
3. 米山だよりと、大谷君より冊子「翔」を頂きましたので、お帰りにお持ち下さい。

小山国際奉仕委員長よりお願い

RI会長よりガバナーを通じ、バルカン半島での危機に対する義援金の依頼が参りました。今年度はバングラデッシュの水害とコロンビアの地震に対し2度義援金の依頼がきましてニコボックスの特別基金より拠出致しましたが、今回はお一人1,000円程のご寄付をお願い致します。

吉田(節)会長挨拶

1年を1日に例えると、5月は丁度午前10時頃あたり、お日様はすでに中天に近づき、人々は1日の行動を開始して、これから何かいい事がありそうであり、又どんな困難が起ころうと必ず突破して見せると言う活力に満ちている、そんな若さにふさわしい季節であります。

6月になると、うっとうしい梅雨が始り田植の季節は“五月秋”田植する少女が“早乙女”田植の女と稲刈りの男のかいがかいしい姿を言い表した言葉に“五月女に秋男”と言いますが、この言葉も、もう今は昔となり、現在では田植も稲刈も全く機械化されて、自然の面影も消え失せてしまいました。この様に科学技術に依り膨らんで来た人間の欲望が地球をむしばんで居る。それが今日の地球環境の大きな問題であると思います。

5月は環境保全の月間であります。

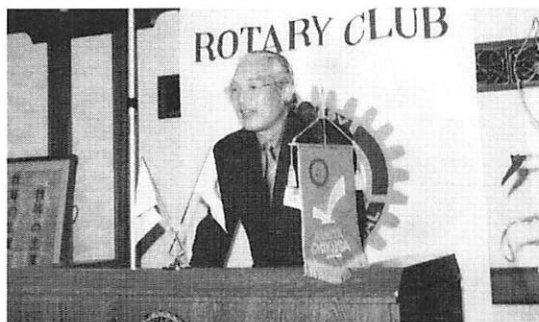
この環境の問題は我々人間が住み良い社会を作り、自然と共生し、我々人間の繁栄を如何に保って行くかと言う事であり、そしてこの問題を21世紀に向いどう解決して行くかと言う事が人類の大きなテーマであると思います。

本日は5月環境保全の月間にちなみ、自然と共生した昔をしのび、大変さわやかな、そして活気あふれる5月をお話して挨拶とさせていただきます。

◆講演

“グリーンマーケットと 日本グリーンビルディング協会と私”

日本グリーンビルディング協会
事務局長 浅井 充彦氏



これからの未来は、今までの価値判断とは全く異なっており、地球環境を考慮に入れた新しい評価価値の目標に向かうものであり、決して、過ぎ去った昔を再び映し出すものではありません。

建物は建物のために存在するのではなく、そこで人間が生活し、働き、さまざまな活動をすることで、初めてその存在の意味があるわけですが、従来、このあたりの考え方が、日本では希薄であったと思われます。

建物に関するあらゆる業種の人たちに集まっていた、情報交換し、建物を健全に保つことは勿論のこと、地球環境保護と企業の繁栄のためにやれることを模索し、少しでも具体的な行動に出たいと考え、「日本グリーンビルディング協会」が設立されました。

設立後1年が過ぎ、現在は会員数が101社に増えましたが、今年度は130社から150社になることを目標としております。

今後は、企業が経済拡大のためにとる行動のなかで、地球環境負荷の低減への行動や成果が、社会にどれだけ貢献しているかということが、その企業を評価する重要な項目になって来ることであろうと思われます。

ごく最近発表された、ニューヨーク市のグリーンビルディングガイドラインでは、環境負荷低減の効果をすべてドルで表しており、経済効果がわかり易くなっているようであります。

日本グリーンビルディング協会では、このニューヨーク市のグリーンビルディングガイドライン作成の直接の責任者であります、ヒラリー・ブラウン氏をお招きして、7月1日、3日、7日に東京、名古屋、大阪の3会場で「第3回地球環境グリーンセミナー」を開催致します。

このセミナーでは、建築をエコロジーで捉えた最初の世代の一人、シム・ヴァンダーリン氏も講師として

お招きして、自然をとり入れたグリーンビルディング、いわゆるパッシブな建物についての講演も予定しております。

またアメリカでは、各企業が年次毎に環境バランスシートを発行しており、これがその企業の株価に大きく影響を与えているようであります。日本の企業では、日産、マツダ、ホンダ、トヨタ、東邦ガス、西部ガスなどがアメリカ向けに発行しているようであります。

国内では、松下グループが環境白書を出していますし、そのほかにも、年次の環境レポートを出す企業が出始めており、企業の環境保護への姿勢を明らかにしています。

日本グリーンビルディング協会では、会員各社が率先してこのレポートを発行するよう教宣したいと考えており、これは、各企業が今後やらなければいけないことの一つと考えております。

そのほか、当然のことながら、各企業は新しい事業や業態の開発をすることになりますが、その根本になるところに、必ず地球環境問題を解決するということを含んでいることが、社会貢献をアピールするという点で避けられなくなってきております。

日本とアメリカのオフィスの考え方の差は、Indoor Air Quality 室内環境の差であります。作業者の執務環境には、アメリカは日本では考えられないほど、真剣に取り組んでいます。

一例として、風邪で咳のする人は他の作業者にうつす危険性があるため、欠席することになっているようであります。そのため、アメリカでは、IAQ＝productivity（生産性）といって、すなわち、欠席率が高くなれば、それだけ生産性が落ちることになるというのです。

このように、建物は住む人が中心であるという考え方が、徹底しているようであります。したがって、パソコンや通信の発達に伴う、自宅での執務が増加傾向にある現状から、当然、個人の住宅のグリーン化も促進されることとなります。

このあたりにも、今後のグリーンマーケットの余地が充分あるのではないかと考えられます。

事業所電話番号変更のお知らせ

会 員 加藤 大豊 君
TEL (052)322-4532

◆4月度理事会議題

(4月定足数不足の為5月11日に開催しました。)

1. 次年度例会の件
2. クラブソングの件
3. 新入会員の件
4. 田中君退会の件
5. 青少年交換学生の件
6. 米山奨学生の件
7. ライラ組織表の件

◆次回例会（5月25日）

友愛の日